

# 一人暮らし高齢者のゴミ出しボランティア (ゴミーストバスターズ)

活動団体 大仙市立大曲中学校生徒会執行部 部員 20名

## 主な活動内容

「地域貢献、地域とのつながり」をテーマに、毎週水曜日の放課後(長期休業中も含む)に地域の一人暮らし高齢者の自宅を訪問し、ゴミ出しボランティア(ゴミーストバスターズ)を行っています。自宅訪問の際には、体調や近況の聞き取りを行うなどし、必要があれば市社会福祉協議会や町内会とも連携するなどの工夫をしています。



## 講評

- ・生徒が主体的に地域課題に取り組み、地域の方々と連携しながら活動されています。
- ・ゴミ出しだけでなく、高齢者の方の健康状態の聞き取り等、高齢者の方とのふれあいに工夫を行っていた点が評価できました。
- ・他の団体へ心のバリアフリーの取組の参考となる事例として期待されます。

## ◆ 秋田県バリアフリー推進賞選考委員会 ◆

全国脊髄損傷者連合会秋田県支部副支部長	五十嵐 憲男
特定非営利活動法人秋田バリアフリーネットワーク理事	菅原 香織
秋田県バリアフリー社会形成審議会公募委員	菅原 睦実
秋田県老人クラブ連合会副会長	前川 伴
秋田県立大学システム科学技術学部助教	李 雪

50音順・敬称略

誰もが安全で快適に生活できる  
バリアフリーのまちづくりをめざして

令和2年度  
第16回

# 秋田県バリアフリー推進賞

## 表彰事例集



### 受賞一覧

部門	施設名	所在地	設置者
施設部門	特別養護老人ホーム やまぼうし	大館市	社会福祉法人 比内ふくし会
部門	製品名	開発者	
製品開発部門	介護送迎バスの 位置情報連絡システム	秋田県立大学システム科学技術学部 鈴木 一哉	
部門	団体名	活動内容	
活動部門 (ジュニア部門)	大仙市立大曲中学校 生徒会執行部	一人暮らし高齢者のゴミ出しボランティア (ゴミーストバスターズ)	



秋田県では、誰もが安全で快適に生活できるバリアフリー社会づくりを県民一体となって進めるため、平成14年3月に「秋田県バリアフリー社会の形成に関する条例」を制定しました。その一環として、バリアフリー社会づくりに積極的に取り組んでいる方を表彰し、広く県民の皆さんに知っていただくことによって、バリアフリーをより一層推進する目的で、「秋田県バリアフリー推進賞」を実施しています。

令和3年3月

## 秋田県健康福祉部 地域・家庭福祉課

〒010-8570 秋田県秋田市山王四丁目 1-1  
TEL : 018-860-1342 FAX : 018-860-3844  
E-mail: chifuku@pref.akita.lg.jp

## 特別養護老人ホーム やまぼうし

**所在地** 大館市比内町新館字真館21-6  
**設置者** 社会福祉法人 比内ふくし会  
**設計者** 株式会社草階建築創作所



### 講評

- ・ 駐車所から出入口、居室・浴室等の利用スペースが全て段差のない設計となっており、車いす利用者の移動にも配慮された設計となっています。
- ・ 車いす使用者もレクリエーションに参加できるよう、ハード面だけではなくソフト面のバリアフリー化にも取り組んでいます。
- ・ トイレやエレベーターは、誰もが使いやすいような整備がされています。

## 介護送迎バスの位置情報連絡システム

**開発者** 秋田県立大学システム科学技術学部 准教授 鈴木一哉  
**設計者** 株式会社 アナログデザイン  
**設置者** 社会福祉法人 中央会 ふるさと学び舎

### 主な活動内容

介護施設利用者の送迎バス利便性を高めるサービスとして開発されました。ICTを活用し、施設利用者家族や介護施設職員への、送迎バスの位置情報や到着時間の連絡を自動化することができます。また、無線局免許無しで利用可能な無線を利用するため、誰でもすぐに利用が可能です。



### 講評

- ・ 送迎バスの位置情報や到着時間を自動的に連絡できるシステムにより、介護施設スタッフの負担軽減や、利用者の利便性・安全性の向上が期待されます。
- ・ 今後システムの運用地域の拡大や、高齢者が利用する際の使いやすさの向上が期待されます。

## ◆ 秋田県バリアフリー推進賞の概要 ◆

### ①施設部門(施設の設置者を表彰)

誰もが利用しやすいように配慮された生活関連施設で、条例の整備基準に適合している施設。既存の施設については、改善に積極的に取り組んでいる施設。

### ②製品開発部門(製品の開発者を表彰)

高齢者や障害者等の自立支援や介助者の負担軽減を図るための独創的な作品など。製品、試作品、改良品などの別は問わないが、知的所有権を侵害しないものに限る。

### ③活動部門(一般部門、ジュニア部門(高校生以下))

バリアフリーに関する啓発活動、高齢者や障害者等の社会参加の支援活動など現在も継続しているもの。ただし、一般部門については2年以上の活動実績が必要。

### ④バリアフリーマップ部門(一般部門、ジュニア部門(高校生以下))

地域におけるバリアフリーマップの作成の取組が対象。ただし、作成したマップを配付、ホームページに掲載するなど、積極的に利活用を行っている場合に限る。